

プロフィール

民間企業勤務を経て青年海外協力隊に参加。青少年活動隊員としてスリランカに派遣され、帰国後 JICA の市民参加事業に従事。日本に逃れてきた難民について関心を持ち、国際法の修士号を取得後、日本の NGO にて国内の難民支援に関わる。2019 年に本研修に参加し、海外派遣では、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR） タイで Associate Protection Officer として勤務しバンコクの都市難民保護に従事。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

国内で難民支援に従事する中で、日本の難民受け入れ制度の問題点を目の当たりにし、国際基準に沿った難民保護を学ぶ経験を得たいと考えていました。その経験を得る場所として、世界各地で難民を保護しそのリード機関として第一線で活動する UNHCR が最適だと思い、本事業に応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修には、ミャンマー、アフガニスタン、南スーダン、カメルーンといった紛争経験地域も含めた様々な国から平和構築の実務者が参加しており、彼女ら彼らの出身国の抱える問題と平和構築への取り組みについて直接話を聞くことができ、大変貴重な経験になりました。毎週入れ替わり立ち代わり来られる専門家のお話を伺うことで、平和構築・開発について幅広いアプローチを学ぶとともに、講師の方々のキャリアについても伺うことができ、自分自身のキャリアを考える上で大変参考になりました。また、長年国際機関で人事を担当されていた本事業のアドバイザーの方が応募書類の準備や面接対策の指導を個別にしてくださり、大変心強く感じました。

3. 海外派遣での活動について教えてください。

海外派遣では、UNHCR タイのカントリーオフィスで Associate Protection Officer として勤務しました。タイにいる難民というと、国境近くの難民キャンプで暮らすミャンマーの人々を思い浮かべる人が多いのですが、私の担当はバンコクに暮らす 5,000 人程の都市難民保護でした。40 を超える国や地域から迫害を逃れてきた難民がバンコクの至るところで生活しており、日本で暮らす難民の状況と重なる点が多くありました。タイ政府は難民条約(1951 年)を批准しておらず、難民法もなく UNHCR の難民認定を認めていないため、バンコクで暮らす難民の多くが逮捕や強制送還に脅えながら非正規労働者として生活しています。日々の業務では、入管、警察による逮捕時の介入、生活や教育に関する相談から、SGBV(性と性差に基づく暴力)や単身でタイに庇護を求めてきた未成年への保護といった深刻で複雑なケースの対応に加え、ナショナルスタッフへの指導も担当しました。また、バンコクで庇護申請者・難民を支援している NGO や他国際機関とのコーディネーション業務、収容所のモニタリング、収

容所での庇護申請者・難民への精神的サポートの提供、現金の給付支援の審査、第三国定住の審査にも関わるなど、幅広い業務を経験しました。

4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

難民とじかに接する業務が一番印象に残っています。難民からのあらゆる相談を日々受けていましたが、生活の不安やストレスがピークに達している状態、もしくは限界を超えている状態の方がほとんどなので感情的になる方が多く、怒鳴り続ける、泣き続ける人が少なくありませんでした。その度に相談者が落ち着くまで傾聴しましたが、ひたすら怒鳴り続けた後に、「聞いてくれてありがとう」とお礼を言う相談者に何人か出会いました。また、生活の困窮状態を訴えに来たある女性から、彼女の求めている解決策を提示できなかったにも関わらず「こんなに敬意と尊敬を持って話を聞いてもらったことはなかった。」と涙を拭いながらお礼を言われたことがありました。迫害を逃れて母国を後にし、庇護申請国でも迫害や差別を受けながら生活している難民の困難は計り知れませんが、そのような状況でも他者に感謝できる強さに感銘を受けました。



事務所にて UNHCR の同僚と



難民のためのチャリティーランにて

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

具体的にはまだ決定していませんが、難民に限らず、また国内外を問わず社会的に弱い立場に置かれている人への支援に関わって行きたいと思っています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

この事業に関心を持つ方の多くが将来国連で働きたいと考えているかと思います。私は国連でのキャリアを強く意識しておらず国連についての知識がほとんどなかったので、国内研修では学ぶことばかりでした。参加者の中にはすでに国連でインターンシップを経験している人や国連での勤務経験がある方も少なくありませんが、私のように知識がなくても講師の方々やアドバイザーが丁寧に教えて下さるので、全く心配ありません。本事業のように国内研修・海外派遣を通じてサポート体制が充実しているプログラムがあるのは日本だけではなく

いかと思います。このような事業に参加できることは大変幸運なことだと思いますので、応募条件を満たしているのであれば応募をお勧めします。